

昭和38年3月13日田町小学校廃校式が行われ「赤いレンガ」の校歌が講堂に響き渡りました。そして、その歌声は次第に小さくなり、最後は涙声になつていきました。

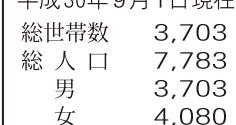
田町小学校は、この4月から隣りに越してきた開智小学校に統合され、53年の歴史に幕を閉じることになつたからです。

田町小学校は、明治43年6月に、児童数1360人、23学級、職員27人で松本尋常高等小学校田町分校として発足しました。

石 報書会 売金たな

白雲うかぶ 桜の道を 青い空
朝夕かよう 僕たちによ 元気よ
赤いレンガの校門よ 田町小学
たのしい 次第に小さくなり、最

城北の
田町小学校石碑



A black granite plaque with white Japanese calligraphy reading "田町小学校跡" (Former Site of Tanimachi Elementary School). The plaque is mounted on a dark surface, likely a building or wall.

○校名は「開智」にすることなどが告げられました。統合によって田町の校名がなくなると聞いたPTAや同窓会の関係者から、統合されるのは開智の方だなどの声があがり、校長やPTA会長らが町会を回り「教育関係者の

○新校舎は沢村の信大病院跡地（現開智学校地）にする
こと

終戦記念

暗い 小中学生時代を語ろ

終戦の日を前に8月10日、蟻東公民館で町内高齢者の方々が「蟻東だべり会」が「私の小学生時代」と題した入山初の大島正人さんの講演会を開催し、経験された戦時下の皇民教育・軍事訓練・学徒動員・勤労奉仕などについて聞きました。

化するにつれ、授業がなくな
り農家や軍需工場で勤労奉仕
に明け暮れ、そしてひもじさ
と不安のつくる毎日でした。
昭和19年8月から就労した名
古屋の軍需工場ではB29の爆
撃とシラミの襲撃にも悩まさ
れました。

満州事変に始まつた15年戦争は学校教育も戦時体制に組みこまれ、校門近くの奉安殿での最敬礼・神社参拝が課せられ、体操時間の武道が小学校の必修科目となりました。大島さんは昭和15年、希望にもえ入学した中学では、軍人精神を叩きこむ配属将校の厳しい教練、千葉での海洋訓練・穗高の有明原開墾が待つていました。太平洋戦争が激

一億玉碎を覚悟した昭和20年8月15日、無条件降伏を告げる玉音放送が全国に流れました。

その日は小学生時代に始まる戦争の惨劇から解放された日でした。真夏の太陽の新鮮なまぶしさがそれを象徴していました。と大島さんは結びました。参加者の一人は「私は孫達にあの頃の辛い思いをもつと真剣に伝えねば」と話していました。

幅工事にともない、移転・新築が喫緊の課題になり、校地の選定が始まつていました。そして昭和37年6月になつて教育委員会から田町・開智の小学校長に

跡地には、城北公民館・福祉ひろばが建てられ地区住民の活動拠点になつていて、玄関脇の記念碑が静かに見守っています。



子どもたちの 夏休み

